

## 開花宣言

田中 愛子

「式」を入れる必要がないというのが理由だそう。そういえば、メディアの「梅雨明け宣言」という表現も変わった。そもそも梅雨が明けるといのは気象、自然の現象である。気象は人間の思惑や営みとは無関係に大気の動きによって生じるもの。それを人間が宣言するというのは不遜な感がないでもない。だから「宣言」でなくなつてよかつたと感じる。もう一つ。

生中継にて気象台職員が手話まじへつつ「開花」を言へり 四野宮和之「コスモス」2023年6月号

「794坊さん平安遷都」「894にかえる遣唐使」「1549広まるキリスト教」。これは年号の記憶法。その年に起きた歴史上の事柄と語呂合わせにして覚える方法である。その中に「1192つくろろう鎌倉幕府」というのがあったが、最近ではその年号が変わつたらしい。鎌倉幕府が成立したのは源頼朝が征夷大將軍に任命された一九二二年だと教わつたけれど、いまは一一八五年、諸国に守護・地頭を設置する権限を得た時だとするのが有力だという。そこで語呂合わせも「1185つくろろう鎌倉幕府」ということになつたらしい。しかし、いいは、いいはなんのこどかよくわからない。歴史の偶然ではあるが、いづくに作ろうとはまことに秀逸な語呂合わせであった。

授業で習つてあたりまえだと思つていたことも変わる。かつて「リアス式海岸」と習つたのも、いまは「リアス海岸」と教わるらしい。平成二〇年度からのことで、もともと「リアス」がスペイン語で入り江を表わすことばなので、

これは今年の桜の開花発表に関する歌。気象庁の担当者が標本木という樹を観察して、花が5輪咲いたら開花したと認定して発表する。毎年春にニュースで流れるおなじみの光景である。以前は「開花宣言」と報道されることもあったけれど最近あまり耳にしない。桜が咲いた、さあ春だという気分が「宣言」と言いたい気持ちもわからないではないけれど、最近謙虚に「発表」と表現される。

さて、語呂合わせで覚えたある人物の生没年がある。「1564、1616」というもの。一五六四年に生まれ、一六一六年に亡くなった人物である。亡くなって四〇年も経つのに「人殺し、色々」なんて言われて、当の本人は泉下で憤慨しているだろうか。いえない、むしろ戯曲家冥利に尽きるとホーリー・トリニティ教会の地下でほくそ笑んでいるかもしれない。なにせ沙翁ですから。